



競輪の補助事業

この事業は、競輪の補助により実施しています。
<https://hojo.keirin-autorace.or.jp/>

< オリンピック・ムーブメント事業 >

JOCオリンピック教室

実施報告書

東京都 北区立飛鳥中学校



公益財団法人 日本オリンピック委員会

「オリンピック教室」の実施にあたって

平成21年4月の学習指導要領から、中学校「保健体育 体育分野」及び高等学校「科目体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが示されました。中学校3年生では、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会などは、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしている」現状を通して、オリンピックの意義を学習することになっています。そこで、JOCでは、中学校3年生の体育理論の学習に先がけ、その内容を事前に啓発する目的で中学校2年生を対象に、平成23年度から授業形式で行う「オリンピック教室」を実施してきました。

近代オリンピックの創始者ピエール・ド・クーベルタンは、人間本来の資質を高めるために、スポーツと文化と教育の側面を持つオリンピックの価値を広めることが相応しいと考え、オリンピック・ムーブメントを推進してきました。JOCもこの価値を若い世代に語り継ぐことは、極めて重要で大切な活動と考えております。日本代表としてオリンピックに出場した選手（オリンピック）は、その栄誉を自覚し、競技面だけでなく社会生活の上でも、模範となる行動が求められますが、オリンピックがその価値を直接生徒に伝えることで、日頃の授業では味わうことの出来ない感動が生まれることが期待されます。

「オリンピック教室」の授業では、教師役のオリンピックが、オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場して得た貴重な経験等を通して、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」、「努力から得られる喜び」、「フェアプレー」、「他者への敬意」といったオリンピックの価値（バリュー）等を伝えます。同時に、この価値がオリンピックに出場した選手だけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも活かすことのできるものであること、さらに、こうした考え方があるからこそオリンピックに価値があることを生徒自身が学ぶこともねらいとしております。

平成29年3月公示の新学習指導要領では、新しい時代に求められる資質や能力を子供たちに育むために、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業の工夫や改善が求められています。「オリンピック教室」でのふれあいの中での学びが、教科の枠を越え、これからの社会や人生に活かせる資質や能力を育む一助になることを期待しております。また、この授業を通して、生徒の皆さんが、運動やスポーツが好きになり、生涯にわたり豊かなスポーツライフの実現につながることも願っています。

令和4年4月

公益財団法人 日本オリンピック委員会

- **目的** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）が教師役となり、
オリンピック自身の様々な経験を通して
「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、
この価値はオリンピックだけのものではなく、多くの人々が共有し、
日常生活にも活かすことの出来るものであることを授業を通して学習してもらう。
- **事業名** : JOCオリンピック教室
- **主催** : 公益財団法人 日本オリンピック委員会（JOC）
- **後援** : スポーツ庁
- **協力** : 公益財団法人JKA、開催地自治体及び同教育委員会
- **対象** : 中学2年生
- **講師** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート） ※派遣オリンピックはJOCが選定
- **期間** : 2022年4月～2023年3月 ※原則、平日開催
- **実施校数** : 80校程度
- **実施方法** : クラス単位を基本とし、2コマで1セットの授業

1コマ目 運動の時間 / 50分

身体を動かしながら生徒との距離を縮め、
チームワーク、フェアプレー、
身体を動かすことの楽しさ等を感じてもらいます。



2コマ目 座学の時間 / 50分

競技者人生を振り返り、
自身が感じたオリンピックの価値を生徒に伝え、
オリンピックをより身近に感じてもらいます。



1コマ目

運動の時間 / 50分

オリンピックの専門競技の技術指導(=スポーツ教室)ではなく、
運動が苦手な生徒も参加できるように工夫されたもの

挨拶(5分)

準備体操(10分)

主運動(30分)

まとめ(5分)



自己紹介
学習内容の確認



準備体操



主運動
(作戦タイム等設け、
生徒が考える機会を作る)



運動の時間のまとめ

2コマ目

座学の時間 / 50分

国際オリンピック委員会(IOC)が推進する「オリンピックの価値」等を、
オリンピックがオリンピック競技大会出場に至るまで、
あるいは実際にオリンピック競技大会に出場した経験等を通して、
分かり易く伝えると同時に、生徒自身が自分ごととして捉え、
今後活かせるような学習内容

挨拶・自己紹介(10分)

オリンピックの価値を伝える(10分)

グループワーク(20分)

まとめ(10分)



学習内容の確認



写真・映像等を使用した
自己紹介



オリンピック自身の経験に基づき「オリンピックの価値」等を伝える



個人またはグループワークで話し合った内容を発表



全体のまとめ
記念撮影(クラス写真)

※時間は目安です
※内容はオリンピックによって変動する場合があります

●時間割について

- ・1クラスにつき、運動の時間+座学の時間の順に、2時間連続で実施します。
- ・1コマ目の運動の時間は体育館で、2コマ目の座学の時間は当該クラスの教室で行います。
- ・原則1クラスの場合は3-4時限目、2クラスの場合は3-6時限目、3クラスの場合は1-6時限目の調整となります。
- ・1日に実施できるクラス数は最大3クラスまでです。4クラス以上実施する場合は2日間以上での調整となります。
- ・同じ時間に複数クラスを実施することはできません。

■ **オリンピック** : 大川 真澄 先生 (体操/体操競技) 【出場オリンピック/アトランタ1996大会】

■ **期 日** : 2022年7月4日(月)

■ **ク ラ ス** : 2年A組/運動の時間

○自己紹介 ~ 授業の目的確認 ~ 準備体操



・アトランタ1996大会に体操競技で出場したと自己紹介。運動の時間に、仲間と楽しむためには何が必要かを考えながら授業に臨んでほしいと授業の目的を伝える。オリンピックバリューの3つの価値について、エクセレンス:「一生懸命頑張る」「何事も諦めない」、フレンドシップ:「協力する」、リスペクト:「感謝する」と説明し、準備体操に移る。

○主運動 等



・準備体操後、「じゃんけん勝ち抜け」を実施(全2回)。4ヶ所にポイントを設けじゃんけんに勝ったら次のポイントに進み、40秒間に何人がゴールできるかを競う。その後2つのグループに分かれ、「尻尾取り鬼」を実施(全2回)。
 ・主運動は、「新聞紙ボール運びリレー」を実施(全2回)。2人組で新聞紙の上にバレーボールを乗せて運び、班で着順を競う。2回目は折り返した後、1人は新聞紙を持って片足跳び、もう1人はドリブルで戻るルールを追加。



・主運動の最後は、体操競技の緊張感を体験してほしいと話し、皆の前でひと班ずつボール運びを実施。班全員で2枚の新聞紙を広げその上にバレーボール2個を載せ、ジグザグに走る。ゴール後に全員でポーズをとる。
 ・座学の時間は、オリンピックバリューについて詳しく説明し、運動の時間に感じたことを思い出しながら皆で考える時間にしたいと伝え、授業終了。

■ **オリンピック** : 大川 真澄 先生 (体操/体操競技) 【出場オリンピック/アトランタ1996大会】

■ **期 日** : 2022年7月4日(月)

■ **ク ラ ス** : 2年A組/座学の時間

○自己紹介 ~ 授業の目的確認 ~ オリンピックの価値を伝える



- ・自己紹介後、皆は将来の夢があるかと尋ね、数名の生徒が夢を発表する。夢や目標を達成するために、今どのように過ごせばよいかを考え、オリンピックバリューに当てはめて考える時間にしたと、授業の目的を伝える。
- ・近代オリンピックの創始者である、フランスのピエール・ド・クーベルタンについて紹介、またオリンピックシンボルの6色を使って世界の国旗が描けると説明。
- ・女子の体操競技種目は、床、跳馬、段違い平行棒、平均台の4種目があり、その中で床が一番得意種目だったと話す。

○個人ワーク ~ グループワーク 等



発問：夢や目標を達成するために何が必要かを考えよう。

発表：エクセレンス：「諦めずに挑戦し続ける」「小さな事からチャレンジしてみる」「達成したいという気持ちを持つ」「夢を諦めない」「行動力」等

フレンドシップ：「人との信頼関係を築く」「周りの人への思いやり」「自分の居場所があること」等

リスペクト：「自分を支える周りの人への感謝」「家族への感謝」「夢にチャレンジする機会に感謝」「フェアプレー」等



- ・グループワークで皆が発表してくれたことは、すべて今後の夢や目標を達成するために必要なことだ。まずは「生きる」ことが大切であり、家族や先生等支えてくれる人に感謝しながら、何事も諦めずに挑戦してほしい。今後、受験等に挑戦する時がくると思うが、目標を明確にし乗り越えてほしい。最後に、オリンピック出場時に着用していたウエアとバックを披露し、オリンピックを身近に感じてほしいと伝え、授業終了。

■ **オリンピック** : 馬淵 智子 先生 (ソフトボール) 【出場オリンピック/北京2008大会】

■ **期 日** : 2022年7月4日(月)

■ **ク ラ ス** : 2年B組/運動の時間

○自己紹介 ~ 授業の目的確認 ~ 準備体操



- 北京2008大会にソフトボール日本代表として出場したと自己紹介。運動の時間は、「全力で取り組む」、「協力する」、「ルールを守る」の3つの約束を守って楽しく取り組み、オリンピックを身近に感じてほしいと話す。
- その後ティーバッティングを披露、打ったボールを体育館後方で生徒がキャッチする。

○主運動 等



- 準備運動は、体全体を使う「後出しじゃんけん」を実施。その後、ソフトボールを使用して、キャッチ練習やトスした後に回転や拍手をする運動を実施。
- 主運動は「ボール運びルー」を実施(全5回)。3チームに分かれ、ソフトボールを2人でパスしながら走り、タイムと順位を競う。ルールはボールを落としたらその場から再スタートすること、折り返しのコーンは2人共触ることとし、ルールを守る大切さを伝える。4回、5回目はサイドステップをしながらボールを転がしてパスするルールに変更。



- 運動の時間を振り返り、3つの約束をしっかり守りながら一生懸命取り組んでいた。オリンピックはメダルを獲得するだけではなく、皆と同じように約束を守ることとても重要なことであり、共通していると話す。座学の時間は、運動の時間に感じたオリンピックバリューの3つの価値を、自身の経験談と合わせて説明すると伝え、授業終了。

■ **オリンピック** : 馬淵 智子 先生 (ソフトボール) 【出場オリンピック/北京2008大会】

■ **期 日** : 2022年7月4日(月)

■ **ク ラ ス** : 2年B組/座学の時間

○自己紹介 ~ 授業の目的確認 ~ オリンピックの価値を伝える



- ・北京2008大会出場時の映像を見ながら、金メダルを獲得したと自己紹介。オリンピックシンボルの5つの輪は5大陸を表し、使われている5色と背景の白色を含めた6色で世界中の国旗が描ける。また5つの輪の重なりは結束を表すと説明。
- ・自身の体験談をオリンピックバリューの「エクセレンス」「フレンドシップ」「リスペクト」に当てはめて話し、何事も諦めないことや仲間の大切さ、相手に敬意や感謝の気持ちを持つことの重要性を伝える。

○グループワーク 等



発問：普段の生活の中でオリンピックバリューに当てはまることは何かを考えよう。

- 発表：エクセレンス：「体育や部活での声出し」「運動会等の学校行事への取り組み」「塾や習い事に一生懸命取り組む」等
 フレンドシップ：「友達と掃除を分担する」「協力して給食の準備をする」「友達との話し合い」「リレーや綱引きでの団結」等
 リスペクト：「大会等、開催してくれることに感謝」「校則や法律を守る」「先生を尊敬する」「あじこし(飛鳥中の大切にしていること)」等



- ・座学の時間を振り返り、普段の生活の中にもオリンピックバリューがあることを改めて感じてくれたこと、また皆で一生懸命考えてくれたことを嬉しく思う。これからの学校生活の中で、受験を経験したり、仲間と上手いかわないことや、意見が合わないこと等、様々な壁にぶつかる時がある。その時、オリンピックバリューを思い出し、改善策を考え、より良い学校生活を送ってほしい。またオリンピックをテレビ等で見たら、今日の授業を思い出してほしいと伝え、授業終了。

■ **オリンピック** : 馬淵 智子 先生 (ソフトボール) 【出場オリンピック/北京2008大会】

■ **期 日** : 2022年7月4日(月)

■ **ク ラ ス** : 2年C組/運動の時間

○ 自己紹介 ~ 授業の目的確認 ~ 準備体操



- 北京2008大会にソフトボールの日本代表として出場したと自己紹介。オリンピックと聞くと難しく感じるかもしれないが、楽しみながらオリンピックについて考えてほしい。運動の時間は「全力で取り組む」、「協力する」、「ルールを守る」の3つの約束を守り取り組んでほしいと授業の目的を伝える。
- 準備運動の前に、トスパティングを披露。その後「体を使った後出しじゃんけん」、続いてソフトボールを使った、トスやキャッチ、回転、トスの間に拍手をする等の運動を実施する。

○ 主運動 等



- 主運動は「ボール運びルール」を実施(全5回)。3チームに分かれ2人組をつくる。1回目から3回目は、ソフトボールをパスしながら走り、コーンを回って戻り次の組にボールを渡す。4、5回目はサイドステップに変更し、ボールを投げるのではなく転がしてパスする方法に変え実施。キャッチミスをした場合は、その場所から再スタートし、必ずコーンを2人でタッチするようにルールを伝える。



- 運動の時間を振り返り、授業の最初に話した3つの約束を守りながら、一生懸命取り組んでくれた。運動が得意な人、そうではない人もいの中で、皆が自分の力を出し切り、お互いに声を掛け合うことができたことは素晴らしい。座学の時間は、オリンピックに出場するまでの過程や、出場した際に感じたオリンピックバリューについて話し、皆の生活の中にどのようにオリンピックバリューを活かせるかを考えようと伝え、授業終了。

■ **オリンピック** : 馬淵 智子 先生 (ソフトボール) 【出場オリンピック/北京2008大会】

■ **期 日** : 2022年7月4日(月)

■ **ク ラ ス** : 2年C組/座学の時間

○自己紹介 ~ 授業の目的確認 ~ オリンピックの価値を伝える



- オリンピック出場時の映像を見ながら、金メダルを獲得したと自己紹介。オリンピックシンボルについて、5つの輪が5大陸を表し、使用されている5色と背景の白色を含めた6色で世界の国旗が描ける。また5つの輪の重なりは結束を表し、世界の平和を願ってオリンピックは創られたと話す。
- オリンピックに出場するまでの過程、そして出場した際もいつもオリンピックバリューの「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」を大切にしてきた。皆も普段の生活の中で意識できるオリンピックバリューを見つけてみよう、グループワークに移る。

○グループワーク 等



発問：普段の生活の中でオリンピックバリューに当てはまることを考えよう。

- 発表：エクセレンス：「部活で一生懸命頑張る」「ゲームがうまくなる」「テストでいい点数をとる」「全力で生きる」「人を助ける活動をする」等
 フレンドシップ：「運動会で団結する」「給食の準備を協力する」「グループワークでお互いの意見を伝え認める」「困ったことを相談する」等
 リスペクト：「目標とする人物を尊敬する」「オリンピック選手を尊敬」「先生に感謝」「家族を大切にする」「友達を思いやる」等



•オリンピック教室を通して、クラスが今まで以上にひとつにまとまってくれたら嬉しい。普段の生活から、相手を思いやり、協力して一生懸命やることができれば毎日の学校生活がもっと楽しいものになる。色々な経験の中で、自分で結果を決め付けず、可能性をどんどん広げてほしい。1人で無理なことは友達のを借りてほしい。今日学んだオリンピックバリューを忘れずにこれからも頑張ってもらいたいと伝え、授業終了。

■集合写真

・2年A組



・2年B組



■ 集合写真

・2年C組



■ 記念品贈呈

・2年A組



・2年B組



・2年C組



■ 修了証贈呈

